

# プロフィール

## 「ぺたぼーど®」による情報共有について

「電子地図を用いた環境情報の共有に関する試行からみえてきたこと」

NPO 法人 八千代オイコス 寒川 裕氏



### 寒川 裕（そうかわ ひろむ）氏の経歴

「NPO 法人八千代オイコス」所属。

ここ数年、食育や思春期保健を主軸に自治体等関係機関と連携し、地域保健分野でまちづくり活動を推進中。

現在、八千代市健康まちづくりプラン推進評価委員、千葉県食育推進県民協議会委員。

共著に『コミュニティ』（日本経済評論社）。(株)NTT データ システム科学研究所に在職。

# 「電子地図を用いた環境情報の 共有に関する試行(実験)」 からみえてきたこと

2008年5月10日  
NPO法人 八千代オイコス

2008 © Copyright YACHIYO OIKOS

1

## 荒尾

— それでは、最後の報告となりますがNTTデータ様からの「ぺたぼーど」による市民情報収集システムに関する報告があります。

電子地図を使うことによって、いろいろと見えてきたことも多いということです。及川さま、よろしくお願ひ申し上げます

## 寒川 裕(そうかわひろむ)

NPO 法人八千代オイコスの寒川と申します

私どもは電子地図を利用した環境情報に携わってきています。本当は WEBGIS として書いたかったのですが、これは実は何年か前の取り組みの製品でありまして、機能もいろいろと制限されていますので、一応電子地図という名称で

ご紹介させていただきます。

### (八千代オイコスとは)

・住民の豊かな生活環境を守るため、住民・行政・地域企業・自然環境保護団体等と連携を図りながら、パートナーシップによるグラウンドワーク活動を主体として、生活環境の保全及び改善のための事業を行い、八千代市内の良好な自然環境維持に寄与することを目的として2001年12月に設立。(http://www.yachiyo-oikos.jp/)

・主な活動:近隣河川の清掃・遊歩道整備・自然観察会、環境学習会の開催、ホテルの定点観測、炭焼きなど

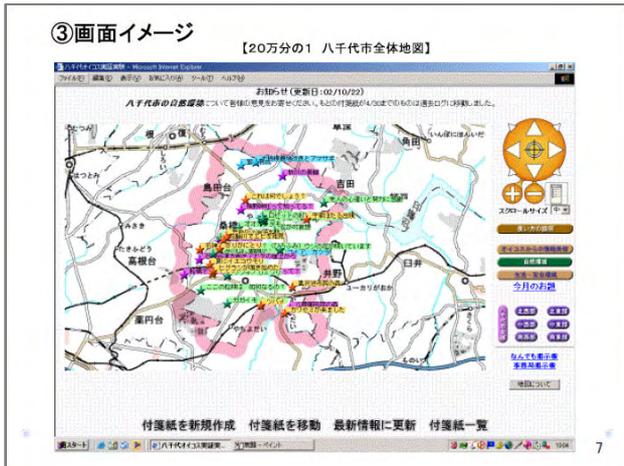
・市政への参画:八千代市の委員委嘱(環境系、地域保健系、まちづくり系)多数

2008 © Copyright YACHIYO OIKOS 3

先ほど田中先生から「ぺたぼーど」の紹介がありましたので、今回私どものご紹介も「ぺたぼーど」を使っております。が製品になる前の段階のもの、プロトタイプのものを使っております、



この実験期間中には、イベントではなく定期的に使われる仕組みとして、目標は議論があっ



て市民や事業者多市民の環境政策に役立てたいという狙いがありました

私たちのゴール、目標は、実験に参加された方々といろいろな議論がありまして、市民とか、行政とか、事業者が環境行政としてどのようなことを行っていったらいいのか、役立てたいと考えていました結論としては市の環境政策に役立てられるところまでは言っていないんですが、いくつかの提言を、3種類の提言を行うことが



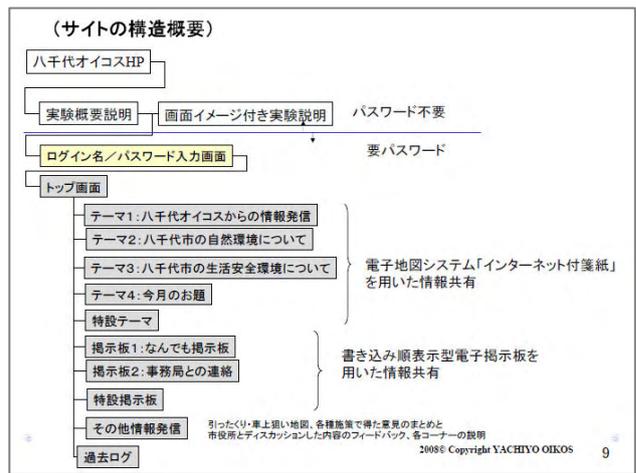
できました。

実験体制ですが、八千代オイコスは、市民(モニター)と行政のとの3者間の真ん中においてモニターします。市が持っている情報とか、八千代オイコスが作って持っている情報をインターネットを介して市民に発信をする。逆に市民の方から環境に関する情報を発信してもらう。私たちは市民から出た環境に関する情報を見て、それを行政の方へ伝えていくという役割を

担うと思っています。市民から発する情報を市民にニーズ等を整理して行政に渡すという行いをしてきました。この議論の場を連絡会という形で、行政とオイコスの社員と市民モニターとで議論をしていく。上のほうにプライベートとありますのは、これは仕事ではない自主的な参加で議論をするという位置付けで進められました。

この連絡会の役割として、今言いました市民側のニーズを行政側にも伝えていこうと。意見交換をしようという、あとは実験を行うための市側との打ち合わせで、例えば市から出さただく環境系の資料でも、先ほどの田中先生的話にもありましたがここまでは出してみてもらい、これは公開するとまずいというような調整をする役割です

この実験に直接にかかわるものだけではないのですが、市民と行政とのパートナーシップの役割の重要さがますます高まる、その時に市民側にどのような課題があるのか、行政側にどのような課題があるのかを、それを乗り越えるためにはどうしたらよいかを、学ぼうと大学の先生に来ていただいてレクチャーを受けたりしました。ということが3番目としてののはな



しでした

これが、実際のデータです。オイコス側から市民側に情報を発信しています。

実験期間と参加者の特性です。2006年3月から、翌年2月まで。参加者はこの

期間に 60 名。対象者は八千代市の在住者、男性が 39 名、女性が 21 名。募集期間は 3 月から 8 月までが私たちが 1 本釣りをしました。環境、生活上での環境情報を持っておられそうな人。それからインターネット上で顔売っているような人を選びました。まあ顔の見える方々を選びました。

この方々が 30 名くらい。第 2 期の八千代市の広報誌とあとはその HP を使って広報をして、30 名ほどの人が集まりました。

この実験期間中に小学校 4 年生の環境学習の学校の先生が興味を持っていただきまして、4 年生の担任の先生でしたが、子供たちの環境学習に実際に皆様とやり取りをしたいと、子供たちにも入っていただいたということが、この子供たちはこの 58 名の中には入っていません

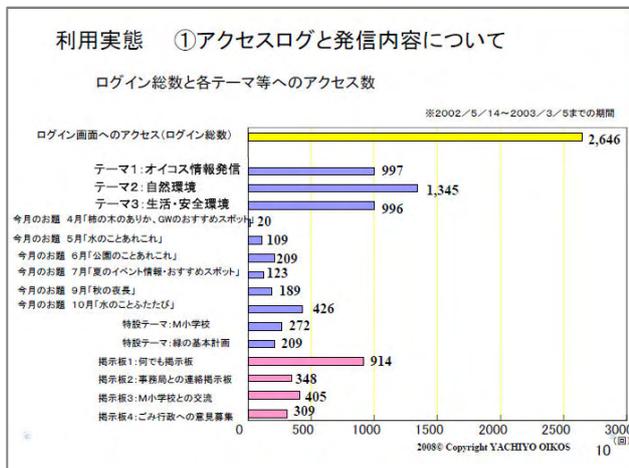
画面のイメージですが、この左側にあるものが実験概要を説明する画面です。

ここが初期画面で、次いで ID 番号とパスワードを入れていただく画面となります。

次が参加モニターの方々への画面です。報告やレポートを出力しています。

具体的な画面です。八千代市は結構広くて 20 万分の 1 の地図で全体を示しています

そして左に 10,000 分の 1 の地図で、どこでこんなことがおきていたよと。ちょっと見づらいかもかもしれませんが、これが具体的な付箋紙の画面です。タイトルがあってコメントがある。



露草の花がユニークですよと写真があって、コ

メントがある。この下には「生き物とリサイクル」という欄があるのですが、これを親と子の関係とみます。

どういった親子かといいますと、議論が進んでいくのかなと注目していたところです

親子関係がどれだけできてきたかをお話します。今回ものすごく効果のあったのは写真です。写真があると 2/3 には子供の作ったコメントが付く、特徴として地図で場所が分かりやすいということもあるのですが、注意してみるとこういう風にきれいですと、ものすごくリアルに表現されますと、写真があるととても効果的であることが確認できました。

八千代警察側と議論して、生活情報として「すり」とか「ひったくり」などの犯罪情報を公開していただく、ということですが、自宅にて、警察官の生活安全課に話しましたところ特定化はできないとして、地図上にゾーンを作ってもらって示しました。ただこの画面は都合で今日は持って来られませんでした。

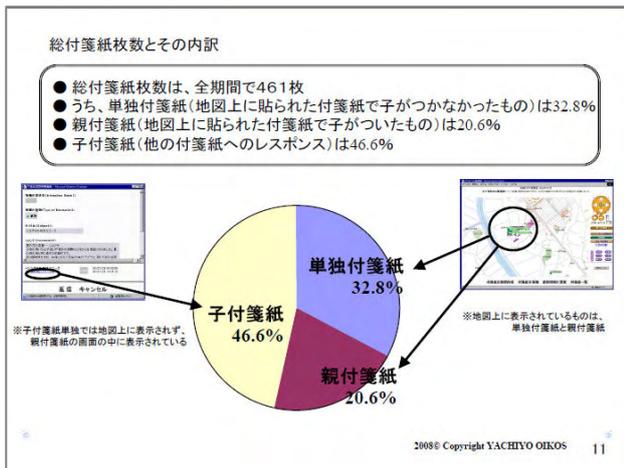
### ここで堂本知事がお忍びで来訪されました

こちらがサイトとなっております、実験概要とかイメージ付きの事件説明など、ここまではパスワードなしにだれでも入ってこられます。

サイトから実験画面や中身はパスワードで入っていただけます。八千代市からの環境情報とオイコスの情報、そして生活安全情報と、交通安全に関しての情報の提供は、58人のモニターの中から活発に意見を出してもらいたいということで、放っておくとなかなか情報が出ないものですから、「今月のお題」という題目で、今月はこのような内容で情報発信をお願いしますと案内をしました。

それでは、「ぺたぼーど」に絞った話に入りますがこのような橋をするからには掲示板のようなものがほしいと申し出がありました。さっそく掲示板というものを用意しました。

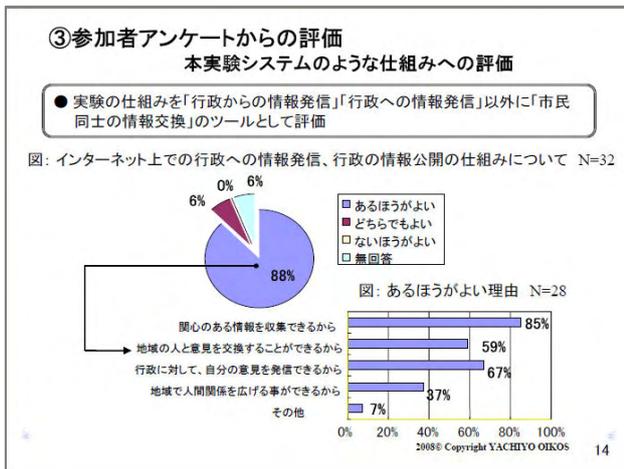
具体的な位置情報には「ぺたぼーど」の地図



を、それを踏まえた意見交換には掲示板という小学生との設定も「ぺたぼーど」からでなく、新たに掲示板を準備しました。「ぺたぼーど」と「掲示板」の組み合わせはとてもよく、

アクセスは5月半ばから、取り始めましたので1年間全部ではないのですが5月から3月までに2,600件。その中で自然環境に関するアクセスが300件。あとは掲示板が。やり取りが増えて掲示板に集中しています。

行政やオイコスからの情報発信が1,000件。時系列的な情報です。6月末には市内の公園について意見を求めましたところ、まず出てきたことは森林インストラクターの資格を有する



方が、大きな公園の樹木が大きくなりすぎているので、これを切るなり間伐する必要があるのではないかとの問題提起はありました。それとほかの地域にある公園のコンセプトを見直したほうが良いのではないかと、いうことがあって、そんなところから意見が盛りあがって、そんな公園のことあれこれから八千代市役所へ

の問題提起へとつながっています。それから危険区域の発信ということがありました。この危険区域の発信とは市内のある個所で中学生が不審者に襲われたということがあって、そういうことから気をつけようという発信があって、でh学校で危険個所に関しての情報を集めているはずだよとの話があって、提供していきよという話になってそれが進んでいったことがあります。

3つ目は11月ですが、緑の基本計画を八千代市が作っているという話がありまして、オイコスのメンバーが1人入っていたのですが、自分が折角のこのシステムがあるから、ということで情報を下さいということになりました。そこで、特別の地図を作って、緑の基本計画を作成するにあたって皆様のご意見を集めということで、11月の山となりました。そして、12月は地元の小学校と意見交換を、季節といき物という題目ですが、年明けの1月にごみ行政に関する意見を求めたときに、発信が増えました。

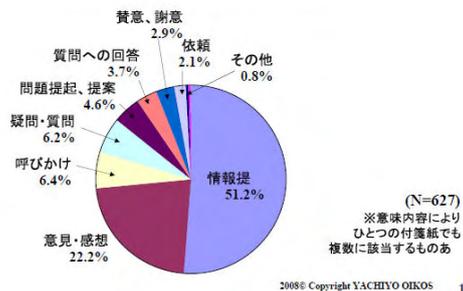
発信ですが単独付箋紙とは、こういう意見もありますよという内容で、親子付箋紙とは、単独付箋紙に子供がついた付箋紙が20%くらい。そのあと元になった付箋紙への意見や感想が、子供の付箋紙と言いますが半数くらいが、いちばん長いのが8回続いた。全体として延々と続いた。親の後に子供が連続8回続いた。もうひとつ特徴的なことは、少し違った観点から子供が付くという、これも全体的には数が多くて、一つの観点から敷衍的に情報が流れだしている。ここは面白いよとか危険だよとか、それに関しての子供の意見が半数ほど

緑の行政やごみ問題に関しては、行政からのフィードバックに時間がかかりすぎて、どうしてしまったのだろうかという意見があって、そのあたりをもう少し明確にしておいて欲しかった。

このあたりが実際に運営する上での課題かなと・・・。今のお話ですが、行政が情報を発信し、その評価で地域の住民が見ることのでき

付箋紙内容分析 付箋紙内容種別グラフ

- 付箋紙の内容で最も多かったのが「情報提供」で51.2%。次いで「意見・感想」の22.2%。
- 問題提起や提案は4.6%であり、情報提供に対する割合は9%。



ることはよい事だとの評価。今自分が住んでいる場所の近くで危険だというようなことは発信してほしいとか、かえって危険を増すからというような反応はひとつもありませんでした。

ということで今回、クローズな空間でありましたが地域の情報を受発信していくには公平なのかと、で、行なわれた実験の仕組みですが、行政へ自分の意見を発信できるということからこういう仕組みがあるほうがよいという意見が9割を超している。行政側の過程では、行政が有する情報を公開していく方法として、行政がやるべき課題を発見するという仕組みとして、また課題に対して幅広く意見を求める場として、政策がどうであったかを評価する場として使えるのではないかと回答がありました。

このような取り組みを通じて、元々関心の高い人たちを集めてはいるのですが、さらにそのようなことが増したというような、具体的には家族と話すことが増えたとか、安全環境に対し

てはそのような人たちやイからの回答が多かった。まあ、そういったことで今回のような取組も、地元の環境情報を知ること、さらに環境をどうしていったらよいのかを考える、見つけたよとかの情報は政策を考える、まあそれほど大きなウエイトは占めないのですけども、いくつかの事例を見ていく中で地元の再発見、新しいことを発見するとそれが地元への愛着に代わって、それがこれからどうしていったらよいのかの考えをまとめていくという方向へつながっていくのかなという風に考えます。

＜本格的な運用に向けての課題：推進母体の考え方＞

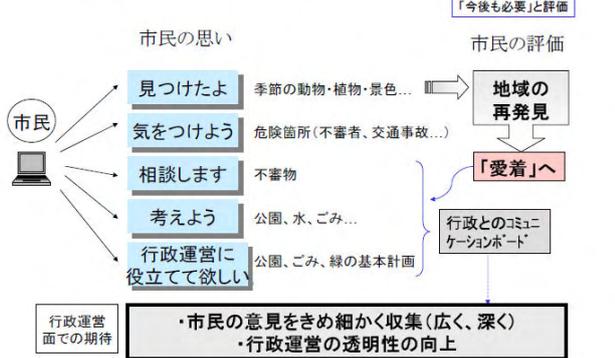
- 案1 市民・事業者・行政が3者一体となった独立組織（協議会）をつくり、そこで運用する形式
- 案2 行政が運営に関与しないNPOが運用する形式（市からの受託による運営）
  - ①単独NPOで運営
  - ②市民・事業者で新しいNPOを発足させて運営
- 案3 行政（市）の中に運営委員会を発足させ、行政が運営する形式

	協議会形式	NPO形式 (オプトス単体)	NPO形式 (新組織)	運営委員会 形式
組織立ち上げのしやすさ	△	◎	△	○
運営（責任）主体の明確さ	○	○	○	○
市民から見た中立性・信頼感	○	△	○	○
市内のキーマンの巻き込み易さ	○	△	○	○
市外の専門家の巻き込み易さ	○	△	○	○
市民へのインパクトの強さ	◎	△	○	○
市民サポーターの獲得のしやすさ	○	△	○	△
運営資金の獲得方法	補助金？	市からの受託	市からの受託	？

◎：最もあてはまる △：あまりあてはまらない  
○：あてはまる ×：あてはまらない

あといくつかまとめてみたことがあるのですが、今回のような仕組みをどういう風におこなったらよいのか、体系図としてどのような、事業者と市民が一体となった組織を作っていくのか、あるいは単独のNPOが実施していくのか市民団体が、環境系のNPOが複数集まって作っていくのがよいのか調整の中で運営委員会を作ってその中でやっていくのが良いのか、いくつか考えてみまして八千代市のほうには提案をしましたがなかなか実現は難しいという状況であります。それで最後ですけどもWEBの中での情報交流をどのようにしていけばよいのかということが話の中身なのですが、その中の結果をどのように実際のフィールドで展開しをしていけるのか、あるいは行政の中で改革に関してどのように取り組んでいけるのか、この部分に関しては違う役割の方々が必要なかなと、速に地域コーディネーターという、今NPOを担ってられる方々だと思いますが、

まとめ ＜実験の総括＞



が必要なのかなと思うのですが、  
情報を発信するということで愛着を増したり  
などがあるのですが、中に出てきたヘルメス  
を使って別の展開を、計画形成に展開をしていく  
というそこに手渡しをする役割の人が重要に  
なってくるという風に考えました。

かけ足になりましたけれどもご静聴ありが  
とうございました。